

理科

1. 傾向

一昨年度(現高2の代)9月以降から、埼玉県公立入試をかなり意識した問題に大幅に変更されました。

【試験時間】

30分から40分になった。

【出題範囲】

全範囲を網羅するため、その年度にすでに出題されていた分野はその後のテストには出題されなかったが、その縛りはなくなった(同じ分野の問題が複数回出題される可能性がある)。

※重要単元・重要語句・重要テーマは出題されやすくなった。

【出題形式】

①記号問題が半数、残りの4割が単語を聞く問題、1割が記述問題[文・図・グラフ]だったが、記号・単語・記述の割合がおよそ3分の1ずつになった。(記号問題が減り、記述問題が大幅に増える)

*2点問題が3問、3点問題が26問、4点問題が4問の計100点満点 (回により若干の変動あり)

②大問1が小問(8問:各分野から2問ずつ)、大問2~5が各分野から1問ずつ。

学習分野ごとに2年分(H.27年度・H.26年度)の内容をみると補足資料の表(右ページ)のようになります。

2. 学習の取り組み方とS.netグループの取り組み

まずは、今年度の出題範囲は以下の表です。(今年度の範囲表より抜粋) ※10~12月も1・2年全範囲を含む

	第2回(6月)	第3回(7月)	第4回(9月)	第5回(10月)	第6回(11月)	第7回(12月)
中3教科書 (東京書籍版)	1・2年 全範囲	1・2年 全範囲	1・2年 全範囲	細胞分裂・生殖・遺伝 (P.66~109)	細胞分裂・生殖・遺伝 (P.66~109)	色々な運動・力の規則性 (P.110~139) 細胞分裂・生殖・遺伝 (P.66~109)

出題範囲から読み取れることは、以下の2つです。

- ① 中3内容は出題されてもごくわずか。(=残りは全て中1・中2の内容)
- ② 中3内容の「化学変化とイオン」「エネルギー」「仕事」「天体」「自然と人間」は12月までの北辰には出題されない。

今年も試験範囲変更されました(中1・中2の内容がほとんど)。理科の場合は、「北辰のかこもん」を受検する回のものだけを勉強してもあまり対策にはなりません。問題はまんべんなく(出題範囲内のものを選んで演習し、間違えてしまった問題の復習をしっかりと、解けるようにしておけると良いでしょう。)

その他には同じ問題集を何度も繰り返し解くことや、教科書を何度も読み返し、内容を覚えることによって高得点が期待できます。暗記科目である理科と社会はそういった反復学習が特に重要となるので、苦手意識を持っている人は特に早い段階から反復学習を始めましょう。(反復学習の教材例 「中1・中2時のワーク」「市販の問題集(難しくない問題のもの)」など) また、県立にも出題される記述問題の対策(理由説明・作図・グラフ)も必要となってきます。

S.netグループでは、夏休みが終わるまでに単元別の小テストを合格するまでに行い、中1~中2までの単語や実験器具の操作などを覚えてもらいます。そして、「北辰テストのかこもん」などを用いて北辰レベルの問題にも対応できるように演習特訓をしていきます。それらの演習特訓も、間違えた問題はそのままにしないよう、自主的にノートをまとめたりすると良いでしょう。

3. 解答のアドバイス

まずは、覚えることで点が取れる生物分野・地学分野の問題の取りこぼしがないように気をつけることが大切です。特に暗記分野は何度もやり直してください。また、難問の計算問題はあとまわしにするのも手だと思います。全問でできる必要はないので、40分の試験時間で自分なりに最高の結果が出せるよう、戦略を練りましょう。(例 30分で解答、10分で見直しなど)

4. 高得点の秘訣

理科で高得点をとるには、簡単な(自分の力でできる)問題でケアレスミスをしないうこと、そして記述問題を面倒くさがり、白紙で出さない事。部分点がもらえます。空欄をなくす努力をしましょう。